



学んで時に之を習ふ

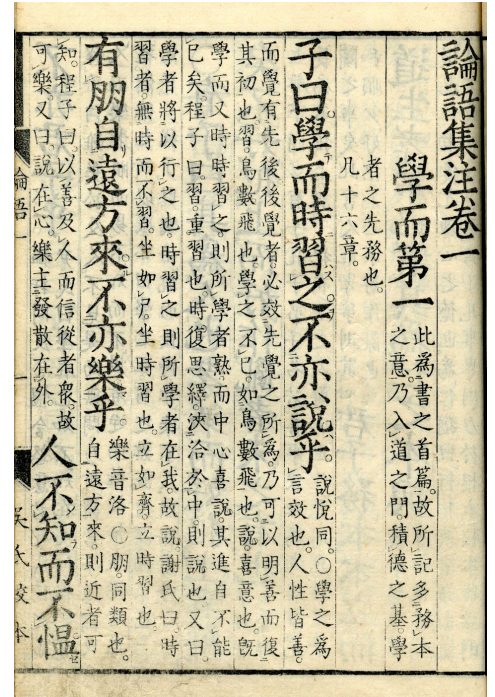
齋藤 文俊（日本語学）

2019年4月から文学部長（人文学研究科長）となった、齋藤文俊です。専門は日本語学で、特に漢文訓読によって生じた表現が、日本語にどのように影響を与えたのか、ということについて研究しています。みなさんも漢文を勉強していると思いますが、「漢文訓読」って、あらためて考えるととても面白いシステムです。普通、外国語を日本語に翻訳する時は、英文和訳でもわかるように、もとの外国語（英文）が残っていることはありません。全部日本語になってしまいます。でも、漢文訓読は、もとの漢文という外国語に色々な文字や記号を書き加えることで、日本語として読むことを可能にしています。そしてその奇妙な翻訳方法によってできあがった日本語は、現代でも、「己の欲せざる所は人に施すことなかれ」とか、「光陰矢の如し」とか、あるいは、「酒は飲むべし、飲まるるべからず」といったような故事成語や標語などで使われています。

さて、写真は、ご存じ、『論語』の冒頭の部分です。教科書では「学んで時に之を習ふ、亦（また）説（よろこ）ばしからずや」と読むことが多いかと思います。（実は、この読み方も、時代により、また解釈によって、色々なパターンがあります。）この文のおおよその意味は、「学ぶこと、そしてそれを繰り返して身につけることは嬉しいことだね」ということですが、『論語』という本の最初にこの言葉があるというのは実に意味深いものだと思います。

学ぶということは、とっても嬉しいことです。ましてや一緒に勉強する友がいれば。名大文学部にはそんな嬉しい気持ちを味わえる場がたくさんあります。

「朋有り遠方より来たる、亦樂しからずや」。



「妬み」の抑制方法を探る

分野・専門紹介—File40

分野・専門名：心理学



心理学講座では、「なぜ人はこういう行動をとるのか」その心の仕組みを理解することを目標としています。そのために、人の脳波を測る実験やラットを使った実験など、文系でありながら様々な実験を行っています。

私は、妬み感情の抑制方法について研究しています。私たちは、自分より優れた他者や自分にはないものを持っている他者に対し、様々な感情を抱きます。その1つとして妬み（envy）が挙げられます。皆さんも、SNSで友人との旅行写真や恋人との写真を載せ、リア充アピールをする人を見てイラっとした経験はないでしょうか。こう

した妬み感情の中でも、他者への悪口や嫌がらせといった攻撃行動につながる妬みを「悪性妬み」と呼び、この妬みを抑制するにはどうしたらいいのか疑問に思ったため、研究を始めました。

私の研究では、かわいい動物の赤ちゃんの写真を見ると悪性妬みが抑制されるという仮説を立て、実験を行いました。実験では、赤ちゃん動物の写真だけでなく、成体の動物や食べ物、日用品の写真も呈示し、どの場合に悪性妬みが抑制されるのか検討しました。その結果、赤ちゃん動物や成体の動物の写真を見ると悪性妬みが抑制され、食べ物や日用品の写真を見ても悪性妬みは抑制されることが分かりました。そして写真の種類により効果に違いが生じた原因には、写真の動物に対して「世話したい」という感情、つまり保護動機が喚起されたかどうかに関わっていることが分かりました。

このように心理学講座では、身近な心の疑問について、好きなテーマで実験を行うことができます。皆さんも心理学講座で、心を研究してみませんか。

(高川 莉奈・執筆時学部4年・写真は卒論中間発表中の筆者)

分野・専門紹介—File41

演習とフィールドワーク

分野・専門名：日本史学

大学の研究室といわれて、皆さんはどのようなイメージを浮かべるでしょう。一口に研究室といっても、大学によって様々ですし、同じ大学でも専攻によってかなり様子は異なります。ここでは、数ある大学のうちのこれまた数ある研究室のうちの一つをご紹介します。

名古屋大学の日本史学研究室を覗くと、人によってやっていることは千差万別です。演習のための作業をしている人、レポートを書いている人、次の授業までの時間を潰している人、お昼ご飯を食べている人……。学生たちが自由に使えるこの部屋は、年によって人の出入りの多寡からそこにいる学生の行動まで様変わりします。卒業論文提出の数ヶ月前となると、4年生が頑張っている印象ですね。

先ほど「演習」という言葉を使いましたが、演習とはそれぞれの課題について調べ、分かったこと、考えたことを受講者の前で報告し、質疑応答する形態の授業をいいます。自ら史料をめぐり、先行研究を探し、課題を解決することが必要になる演習は、教科書に書かれている内容を理解することが中心の高校日本史とはかなりイメージが違うのではないのでしょうか。

講義室で行われる授業の他に、史跡や博物館の見学を伴う授業もあります。授業のなかで扱った史跡に実際に行って初めて気づけることも多いです。博物館では学芸員の方から業務のお話を伺ったり、収蔵庫などを見学させて頂いたりすることも。また、年に一度の研究室旅行では、研究室の学部生から院生、先生方と一緒に県外の史跡を訪問したり、古文書を見学したりします。

写真は、現地実習に参加したときのものです。普段の学内での様子が気になる人は、研究室のホームページにアクセスしてみてください。

(芝田 早希・博士後期課程3年)

最近の文学部

ついに100号！！

ふと気がいたら今回で『月刊名大文学部』は100号！スタートの4月、そして新文学部長着任と、本号は色々な意味で節目にあたります。今月で平成も終わり。新しい時代を迎え、ますます充実した誌面にできたらと思います。(YK)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)